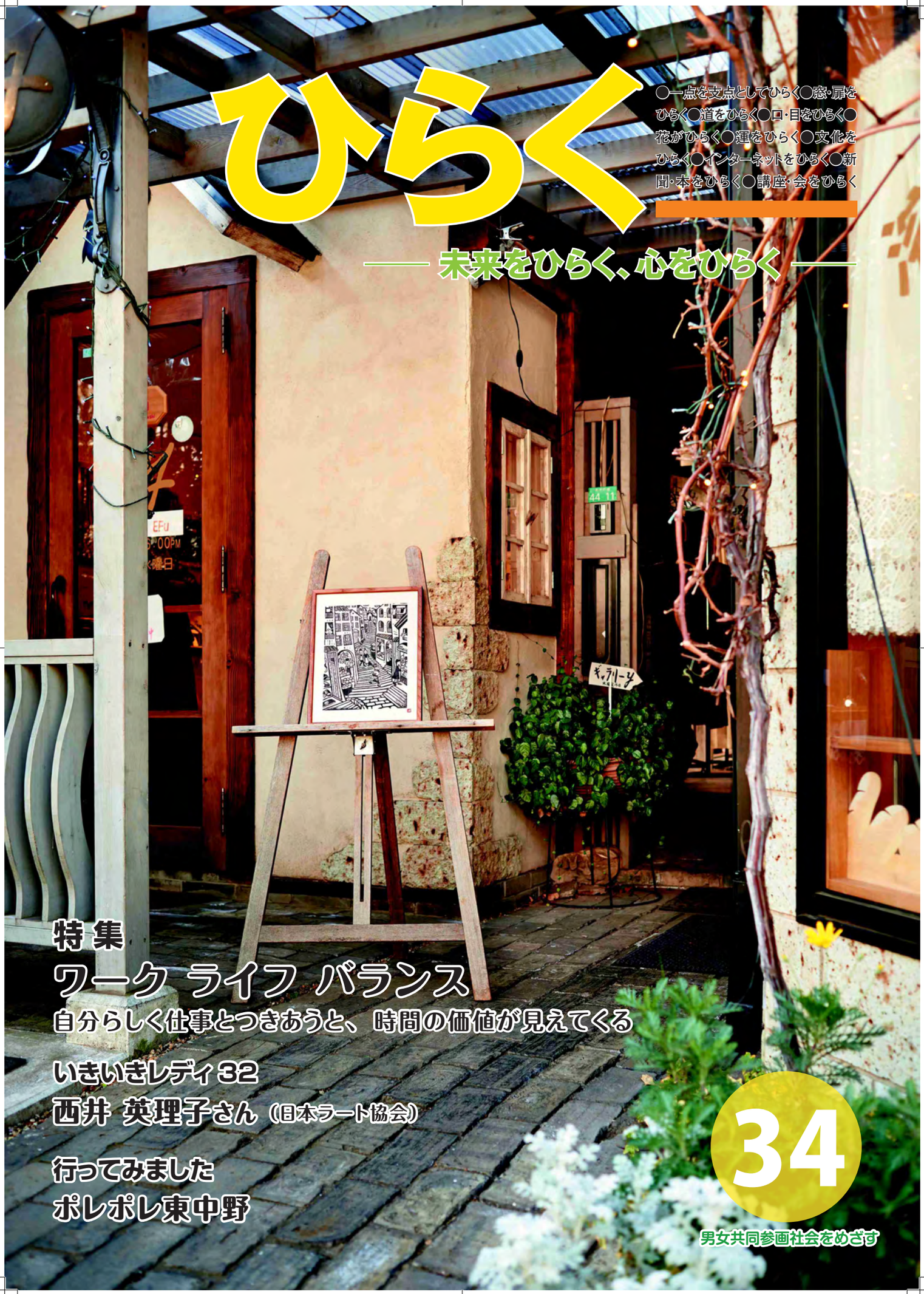
ひらく

○一点を支点としてひらく○窓・扉をひらく○道をひらく○口・目をひらく○花がひらく○運をひらく○文化をひらく○インターネットをひらく○新聞・本をひらく○講座・会をひらく

―― 未来をひらく、心をひらく ――



特集
ワーク ライフ バランス
自分らしく仕事とつきあうと、時間の価値が見えてくる

いきいきレディ32
西井 英理子さん（日本ラート協会）

行ってみました
ポレポレ東中野

34

男女共同参画社会をめざす

特集 ワークライフバランス

自分らしく仕事とつきあうと 時間の価値が見えてくる

今年度の特集は「ワーク ライフ バランス」。内閣府の定義によると「ワーク ライフ バランス」とは「仕事と仕事以外の生活との調和」です。仕事と仕事以外の生活とは一体どんなものなのか。それを考えるとき、まず大切なのは、今の世の中では仕事とは生活を支える「経済活動」だという事実です。多くの人々は自分の時間や労力を提供して日々の暮らしをまかなっています。その結果、時間には時給という物差しが付き、人間はその物差しで計られるようになったようです。

でも、仕事の価値が時給だけで評価される世の中はちょっと寂しい気がします。工夫とか、気遣いとか、愛情とか、誠意とか、その人でなければできない技術で仕事の価値が計れたら、仕事はいろいろな顔を持つ楽しいものになり、仕事と仕事以外の生活との関係も、ぎくしゃくせずにもっと仲良くなれるはずなのに。

現代社会ではお金は必要。でも、それだけを追い求めても豊かな「ワーク ライフ バランス」は難しい。時給で評価される仕事ではなく、自分らしくなれる仕事を選んだら、時間はもっと価値のあるものになるのでは。

イイトコにはイイコトがある イイトコ日曜市

市（いち）は人々が生活を始めた大昔からある、人と人がつながる場所です。イイトコ日曜市は毎月第2日曜日（8月は休業）に武蔵小金井駅近くのアクセサリー店で開かれます。NPO法人カッセが主催した「ゆめサポ塾」で起業の仕方を学んだ人たちが多く出店しています。楽しみが仕事になったらいい、「流れ」の中で始めた、生活を乱さない程度に関わる、条件がそろって起業した、人とつながりたい、仕事と生活を分けない、という人たちがいました。

〈広末さん〉「ヒロスエ ヨーコ」

仕事をしながら、自分のつくりたいものを作ってきた。帽子づくりから始めて、今はコサージュ、蝶や小鳥の形の布製アクセサリーなどを作る。糊を入れたり染色をした布を乾かす時間が必要なので、合間の時間に日常のことをする。店は長く続けたいので、無理なく時間を使う。

〈永浦さん〉「TOMOTOMO」

販売の仕事とパソコンのインストラクターをしている。紅茶教室に通ったことから自分でブレンドした紅茶を販売。ティーコージー（紅茶ポットにかぶせる保温帽子。逆さにするとバッグになるデザインは永浦さん、縫製は友人）も販売。店番をしてくれるので子連れで参加している。

〈佐脇さん〉「まんまる屋」

働く女性の健康のためにはココロとカラダの調和が大事だと考えた。アロマを使ったハンドマッサージ、タロット占いなど。出産で仕事を辞めた後、社会から取り残された感じがした。それが原動力となって店を始めたが、子どもの成長と共に、自分をとりまく環境も変わった。月1回というリズムが自分の生活にあっている。子どもは一緒に来て店を手伝う。

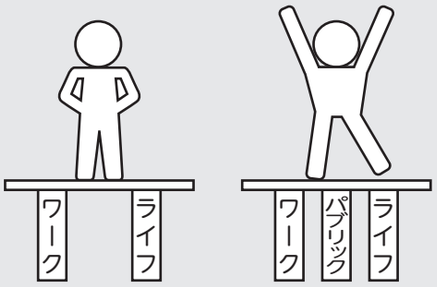
〈福島さん〉「Jewel 4U（ジュエルフォーユー）」

会場の店舗オーナー。定休日のうち月1回を日曜市に提供する。自作の真珠・天然石アクセサリーを販売。夫の転

ワーク・パブリック・ライフ・バランス
NPO 法人　二枚目の名刺

あなたがもし、本業の1枚目の名刺の他にもう1枚の名刺を持つことができたら、どんな名刺を作りますか？

「２枚目も何も、本業と毎日の生活で精いっぱい！そんな時間はない！」という声も聞こえてきそうですが、「あなた」を支える柱を「仕事」と「生活」の２本から、「社会活動」を加えた３本にしてみる、と考えてみたらどうでしょう？



〈２本で支える〉　〈３本で支える〉

それぞれのバランスが少し崩れても、３本なら安定しそうです。

この３つ目の活動を加えることで、個人にとっても社会にとっても豊かな社会を実現しようと活動しているのが、<NPO法人 二枚目の名刺>です。

彼らは、社会活動団体（ＳＰＯ）と個人をつなぎ、二枚目の名刺を持つ人が増え、豊かな社会が実現することを目指して、「サポート事業」「普及事業」「ネットワーキング」などの活動をしています。

「社会活動なんてしたことがない」「仕事も忙しいし、どれだけ時間を使えるか分からない」という方もいるでしょう。

二枚目の名刺のサポート事業は、ＳＰＯでの短期間のプロジェクトをチームでサポートするというスタイルをとっているので、社会活動に参加するきっかけにはぴったりかもしれません。

職場では気づかなかった自分の強みを見つけたり、新しい人との出会いがあったり。ワークにもライフにもいい影響がありそうな、ワーク・パブリック・ライフ・バランス、あなたも始めてみませんか？

NPO法人　二枚目の名刺　　http://nimaime.com/

勤が多かったので仕事を辞めて子育てと家庭のことをしてきた。ゆめサポ塾の模擬出店で商品がよく売れたことと夫の「やってみれば」の一言で店舗を借り起業した。家族や介護が必要な親の状況に応じて仕事時間を決める。

〈岡田さん〉「ポッタリーデザインチーズワークス」

日曜市の事務局。チラシを作成。食器デザイナーの仕事を出産で辞め、自宅でフリーのデザイナーとして働く。自ら考え作るを実践するため、陶器のアクセサリーのブランドを立ち上げた。夫に子どもたちを預けられる日曜日には、末っ子の赤ちゃんをおぶって参加する。

左から　阿部さん、大仲さん、岡田さん、福島さん、佐脇さん、永浦さん、広末さん

〈大仲さん〉「たのしい川辺」

日曜市の事務局。古物商の資格をとり、児童書の古本屋を営業。フルタイムで働いてきたが、将来のことを考えて早期退職し、ゆめサポ塾に参加した。閉店する本屋があってもネットで古本が取り引きされていることを知り、好きだった児童書に限定して開業した。会社員生活では得られなかった人とのつながりが得られた。

〈阿部さん〉「えくぼカフェ・ＫＯＢＡＬＴ」

日曜市の布製看板を作成。岡田さんの紹介で参加。カフェ勤務をしながら、窯を貸してくれるお店で焼き菓子をつくり販売。仕事と暮らしが近い。昔のやり方では仕事ができなくなってきていると考え、半分仕事で半分は楽しみでしている。取材日の目玉、キンカンのケーキとキーウィのケーキはすぐに売れた。

・イイトコ日曜市がたつ日はブログでわかります。
http://iitocoichi.exblog.jp/
ＮＰＯ法人カッセＫＯＧＡＮＥＩ：「地域振興・活性化・市民起業のお手伝い」をするＮＰＯ。「ゆめサポ塾」はそのひとつ。

自分のやりたい事を見つめ直してこの形に！

ねこじたゴリラ堂店主　佐藤匡弘さん

花小金井で中古絵本店を営む佐藤匡弘さんに話をうかがったところ、ライフスタイルがとても充実していることに驚いた。

ちょうど二十歳の成人式を迎える節目の年に、阪神淡路大震災と地下鉄サリン事件が立て続けに起きた。「いつ何が起きるかわからない。一体自分は何をするべきなのか？　後悔しない生き方をしよう！」そう思ったそうだ。

その後、色々な仕事に就きながら辿り着いた答えは、「自分で何かしたい」「子ども好きが高じて学生時代から子ども向けボランティアをしていた」「本を扱う仕事経験がある」。それらを融合して考えついたのが、中古絵本店だった。様々な条件が良い方向に重なりオープンとなった。

オープンして早4年経つが、プライベートと仕事の区別はほとんどないそうだ。自分のやりたいことを仕事としているためストレスフリーで、仕事と趣味がイコールだという。

壁一面に絵本をディスプレイ。
おすすめは「じごくのそうべい」「モチモチの木」「そらいろのたね」

サラリーマン時代は休みが来るのが待ち遠しく、月曜が憂鬱で仕方なかったと振り返る。しかし今は、気がつけば休みはほとんど取っていない。仕事が楽しくて、休みたいという気持ちにならず、年末年始の帰省の際も、早く仕事がしたいとばかり思っていたそうだ。

彼は、自分に正直に、そして信念を貫き、仕事と生活の調和の取れた充実した楽しいライフスタイルを送っていて、終始笑いの絶えない活き活きとした表情だった。取材中、この理想的なワーク ライフ バランスに「羨ましい」という言葉がストレートに出てしまった。

昔は休みが待ち遠しかったが、今は休むことより四六時中ずっと仕事をしていても楽しくて仕方ない！

住：小平市花小金井5-29-10
☎：042-452-6200
営：10:00～19:00
休：無休（不定休）

すべて自分で決められる その自由さは何ものにも代えられない

珈琲豆焙煎工房　まめ吉店主　山口英吉さん

「いまの生活、そりゃー楽しいですよ」と、店主の山口さんは満面の笑みで話す。白いログハウスの可愛らしいショップの棚には丁寧に焙煎された豆が並び、傍らにはイタリアンデザインを彷彿とさせるおしゃれな焙煎機もある。立地的にも決して目立つ店ではないのに、一人また一人、時には遠方からもお客さんが訪れる「まめ吉」。

山口さんは子ども服など20数年間デザイナーとして活躍、バイクウエアを扱うメーカーではWebショップの運営など販促や経営までも関わっていたという。しかし、父親の死から自分自身の死を意識し、「果していまの生活のまま、一生を終えていいのか？」と考える様に。また同じ頃に子どもが生まれ、大好きな子どもとの時間も取れず、朝早く出て深夜に帰る生活に疑問を抱く様になったという。

もともと日本酒やワインなど香りのあるものが好きだったし、父親も大好きだったコーヒーに次第にのめり込む様に。また偶然にも尊敬できる師匠に出会い、指導を受けながら準備を進めていくうちに、一人でやっていける自信を掴んでいったとのこと。「実は最初、妻は猛反対で…、でもそれを押し切って始めたんです」との告白も。今では紅茶部門を担当したり、パッケージのデザインを一緒に考えてくれたり、ふたりの「まめ吉」になっていると話す。

入口にもアンティークの小物をレイアウト。
温かな雰囲気が伝わる

「焙煎だけでなく、ほっと一息つける場所を提供したい」という山口さん。だからこそ、一度訪れたらまた行きたくなってしまうのかもしれない。

様々な出会いや偶然が重なり、すべてが自然につながっていまに至ったように思えます。

住：立川市砂川町6-36-11
☎：042-535-1070
営：10:00～17:30
休：日曜日・祝祭日、第1・3水曜日

こだわりのクッキー屋さん

cookies KAWAI店主　河合貞子さん

玉川上水沿い、久右衛門橋近くの「cookies KAWAI」は、母と娘が二人三脚で開いているクッキーと喫茶の店。

店主の河合貞子さんはパン、ケーキ、クッキー作りが好きで、独身時代には飯田深雪さんの料理教室に通った経験もあり、お菓子作りはずっと続けていた。

音楽大学出身で、ピアノを教える仕事をしていたが、転勤が多かったので、思うように続けられなかった。小平市内の社宅に住んでいる時にも、子育てをしながらお菓子作りをしていた。特に、クッキーは日持ちがするし、持ち運びにも便利なので、友達にプレゼントして喜ばれていた。

40代になった頃、子どもが成長するにつれて、自分がとり残されたような気分になり、夫に悩みを打ち明けたところ、「今できることを続けていれば、自然に形になるよ」というアドバイス、河合さんはクッキー作りにさらに力を注いだ。

転機は自分の家を購入することになった時、夫とクッキー工房を作る約束をしたこと。2001年に現在の場所に自宅とクッキー工房と店舗を建築することになり、玉川上水の自然がそのまま借景になることに気づき、喫茶スペースも作ることにした。ただ、注文のクッキーを毎日焼くために、喫茶は金曜日と土曜日だけに止めている。

娘の紗佳さんも音大生の時から店を手伝っていて、クッキーに絵や文字を入れたり、クッキーでブーケを作ったり、お母さんの片腕となり働いている。

河合さんが、好きなクッキー作りを続けて、お店を持つ夢を実現させ、将来も家族と共に歩んでいくことができるとは、すてきな事だ。

こじんまりして落ち着いた雰囲気のお店。クッキー型の店名プレートが目印！

あくまでも「クッキー屋さん」であることに、こだわりを持って、これからもクッキーを作り続けます。

住：小平市上水本町2-9-8
☎：042-320-5257
営：11：00～18：00（金・土のみ）
※注文は随時受け付けます。

〈市場に行こう　誰かと話そう〉

同じ場所で同じ時間をすごす、知らない人と話をする、知らない人と笑い合う、知らない人はいつの間にか知らない人じゃなくなる。おいしいものを食べて、作り方を教わって、いろんな人がいろんなものを作っていることを知る。自分の時間から生まれてくるすばらしい成果をみんなで堪能しよう。

商店街や市の施設、手作りの小物をおいてくれるおしゃれなカフェ、最近小平でも気軽に自分の可能性を試せる場所が増えてきています。自慢のお菓子やオリジナル作品を持って参加してみましょう。価値観を共有出来る仲間をみつけたら、思いきって話しかけてみる。ほんの数分間だけでも本気で話ができたら、そこであなたのステージが変わる。　そんなわくわくする場所に、行ってみませんか、今度の休みに。

〈小平周辺フリマ〉

ごみゼロフリーマーケット

主催　小平市ごみ減量推進実行委員会
場所　小平市役所北側立体駐車場
対象　アマチュアの2人以上のグループで市内在住。
参加費　1000円
ごみ減量対策課
☎ 042-346-9535

日立教習所　フリーマーケット

2006年から始まった自動車教習所の敷地内で開かれる、大きなフリーマーケット。近隣の人たちが思い思いにお店を広げる。地域のコミュニケーションの場にもなっている。申し込みは、開催日の2ヶ月前から。（5月予定）
日立自動車教習所
☎ 042-321-3981

NPOフェスタ in 元気村

2007年から始まった、市民活動見本市のフェスタ。出店等の参加は自由で毎年、たくさんの人が元気村に集まる。フリーマーケットのほかにも、手作りの品物、フェアトレードのマフラー、ミャンマーやペルーの料理等の販売もある。参加は無料で、企画・運営にも参加出来る。
市民活動支援センターあすぴあ
☎ 042-348-2104

〈手作りの品をおいてくれるところ〉

はこギャラリー

西武多摩湖線一橋学園駅そばにある、おもしろギャラリー。おもちゃ箱をひっくり返したような店内は想像の発露。問い合わせは、ホームページで
http://haco-gallery.jimdo.com/

カフェ　ラグラス

小平駅からグリーンロードを花小金井方向に数分歩いた、あじさい公園の隣にある、すてきなカフェ。オーナーの審査が通れば、店の入り口にある棚に品物をおいてもらえる。来たれチャレンジャー。
☎ 042-344-7199
http://www.laguras.com/

ひらく広場

原稿をお寄せください

ひらくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿（500字以内）には〒、住所、氏名（ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可）、年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先／小平市小川町二丁目1333番地
小平市次世代育成部青少年男女平等課
「ひらく広場」係　FAX 042-346-9200
byodo@city.kodaira.lg.jp

ひらく編集室はあなたにひらいています。

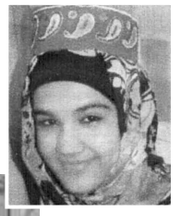
弱小NGO 難民支援活動10年

チェチェン戦争は１９９４年に始まったからもう20年になる。

私たちの会は２００３年からチェチェン難民が大量に暮らすバクーで難民学校支援を始め、その一環として２００４年から手芸教室を開講し、細々とだけど現在に至っている。

バクーにはチェチェンのみならず紛争各地から大量の難民が流入しているから資金力豊かな諸外国大手ＮＧＯがたくさん活動している。しかし、大手団体にはそれ相応の成果・報告書が必要であるから、カネをつぎ込んでも「××難民の平均体重が上がるなど」成果報告書が出ない手芸教室には目もくれない。

世の中には「すき間ビジネス」というものがあるらしいが、私たちの活動はまさしく資金難・弱小ＮＧＯの強みを活かした「すき間支援」である。子どもたちが手芸教室に来て刺繍をやっている間だけでも悲惨な戦争を忘れてくれたらそれでいい。刺繍の腕前を上げてカネを稼げるようになってもならなくてもいい。上向き報告書不要なのだから。



手芸教室の様子

大手支援団体が運んでくる大量の支援物資に群がり罵り合う普通の難民、配布利権を狙う目端の利く小ずるい難民。彼らはやがて助け合うこともなくなり、ソチ五輪を巡るテロ実行犯になったかも知れないのである。

（チェチェンの子どもを支援する会　代表　鍋元トミヨ）

※バクーはアゼルバイジャン共和国の首都

※ひらく12号の特集でチェチェンを取り上げました。在庫あり。

女性と子どもの貧困②

「子どもが夢を描ける社会に」

女性の貧困とともに心配されるのが、子どもの貧困。ユニセフの報告書（注1）でも、先進35カ国のうち日本は9番目と高く、経済優先の陰で貧困層が拡大していると感じます。前号に続き、片山かおるさんにお話をうかがいました。

――昨今、親の年収が子どもの進学率に影響を与え、教育格差が生まれているといわれていますが…。

片山　年収の低さでいえば生活保護や一人親家庭が顕著で、高い教育費のため進学をあきらめ低待遇や非正規で働くこととなり、貧困の連鎖が起こっています。例えば大学まで無償にすることや、返却義務のない奨学金制度の拡充など、教育の機会平等が必要です。

――多くの奨学金は「教育ローン」、新社会人がすでに多額の借金を背負っている状況は異常だと思います。前回うかがった生活保護の引き下げも影響があるようですね。

片山　生活保護基準が引き下げともなれば、連動して就学援助の基準も下がります。いまの学校は公立でもお金がかかり過ぎ。就学援助を受けても教材費などが足りないケースが生じています。

――「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワークは、そうしたお金のないことで、悲しい思いや辛い体験をすることのない社会を目指していると聞きました。

片山　小金井には、児童養護施設等の退所者のケアを行う「ゆずりは」という相談所があります。施設で育った子どもは18歳で退所、一人社会に放り出されてしまう。スキルアップなどの就労支援はもちろん、アパートを借りることなど「親」代わりのサポートが必要なのです。

――最近ではソーシャルインクルージョン（注2）ということを提唱する人も現れています。女性の貧困も同じですが、問題を見て見ぬふりをする、切り捨てるのではなく、社会全体で取り組むことが大事だと感じます。

片山　西東京市でも（注3）無料の学習指導をする市民団体ができるなど、いろんな活動が始まっています。子どもが未来に夢を抱き、限りない可能性を実感できる社会にすることは大人の責任だと思います。